

夏号 みどり通信

発行 21 世紀記念公園 麓山の杜管理事務所
 連絡先 〒963-8876 郡山市麓山 1-16-17
 TEL 924-2194 FAX 924-2195

【みどりの教室】

- (1) 日 時：令和 7 年 8 月 3 日(日)10:00～12:00
 場 所：21 世紀記念公園とんがりふれあい館ホール
 定 員：20 名（抽選）
 内 容：季節の寄せ植え、緑の相談
 受講料：2,000 円
 募集期間：7 月 11 日（金）～7 月 20 日（日）
- (2) 日 時：令和 7 年 9 月 7 日(日)①10 時～②14 時～
 場 所：21 世紀記念公園とんがりふれあい館ホール
 定 員：20 名（抽選）
 内 容：季節のリースづくり
 受講料：2,000 円
 募集期間：8 月 15 日(金)～8 月 24 日(日)

*** 窓口、電話、メール、FAX で受付します**

【みどり講習会】* 受講料無料、予約不要

場所：とんがりふれあい館ホール

対象：記念樹交付申請者及び希望者

日時：令和 7 年 9 月 28 日(日)10:00～12:00

内容：ハナミズキの年間管理

日時：令和 7 年 10 月 26 日(日)10:00～12:00

内容：冬の手入れ方法

日時：令和 7 年 11 月 30 日(日)10:00～12:00

内容：土壌改良、肥料

* 樹木医による園芸に関する講座です。

今年も既に猛暑となっています。早々と梅雨明けした地域もあり、水不足が心配されます。植物にもこたえる夏となりそうな予感です。初夏を彩る白系統の花が鮮やかな夏色の花に代わってきました。いつまで暑さが続くかはわかりませんが熱中症に気を付けて緑を楽しみませんか。



My ガーデニング・・・季節のワンポイントアドバイス

【水やり】

とても大切な作業が水やりです。植物は肥料が少なくても枯れはしませんが水分がなくては生きていきません。根の範囲は限られていますのでそこに水分がなくなってしまうと萎れてしまいやがては枯れてしまいます。根の張りが浅い植物や植えて間もない場合は特に気を付けなければいけません。そしてあげる水の量と頻度も重要です。根まで届かなければいけませんし蒸発したらまたあげるようになります。天から落ちてくる雨と違い乾燥し高温の時の水やりはすぐに乾いてしまいます。あげる時間帯も朝が向いていますが夕方にもあげるようになる場合があります。日中の暑い時間帯は避けてください。水はけの悪い条件だから水やりが少

なくて済むというのは根本的に間違っていますよ。適した土壌とは通気性通水性がありそして保水力があるのが条件です。鉢植えの場合は受け皿に水を張っておくのは根腐れを起こしてしまいますので良くありません。底面給水の鉢植えとは違います。下の写真は水切れを起こしたヤマボウシです。



【植替え】

この暑い時季は鉢植えの場合でも行わないほうがベストです。秋の彼岸頃になり暑さが落ち着くのを待ちます。

【肥料】

この時季の施肥は根を痛める心配があるので基本的には行いません。草花などに液肥をあげる時は普段よりも薄めて使用します。

【病害虫】

病気は予防、害虫は早期の退治が基本です。特に6月中旬ごろからカミキリムシの被害が出始めています。特にカエデ類についているゴマダラカミキリが枝を食害し弱らせています。可哀想ですが見つけしだい捕殺します。下の写真はゴマダラカミキリです。



ハナミズキなどにはうどん粉病が広がり始めています発生する前から殺菌剤を散布して防ぐようにします。



病害虫対策は日ごろからの観察が大切です。

【剪定】

この暑い時季に剪定をされて強い日差しに照らされてしまう樹木は可哀想ですね。本来ならば植物はこの時季に葉を大いに茂らせ成長しています。それを剪定されて葉が少なくなり幹までに直射日光を浴び日焼けを

起こしてしまいます。剪定を強く行ってしまうと形を整えたり成長を抑える為の作業が逆にマイナスになる危険性があります。自分の都合で切ってしまうのではなく、あくまでもその植物にあった剪定を心がけてください。また剪定後はこまめに枝葉全体に灌水をおこない暑さから保護してあげるようにします。

【夏越し】

植物は本来、あった環境というものがあります。人間のよう移動できるわけではありません。半日陰を好むものもあれば、多肉植物の種類によっては水やりを少なめにしてあげるものもあります。半日陰を作るのには落葉樹の下に移動したり遮光幕を設置して光の量を調整します。

ハナカツミは今の時期は半日陰の所に置くようにします。水切れにも注意してください。

下の写真はヤマボウシのウルフアイという品種です。斑入りのものは日焼けしやすいです。

**【除草剤】**

皆さんは除草剤を使用しますか？本来庭などには使用せずに手作業で処理するのがベストです。庭に使用する時には農薬登録をされているもので残効性が極力ないものを選びます。液体のもので薬剤がかかったものだけが枯れ地面に落ちると無機物に代わるようなものです。金額的には高額になりますがある程度安心は担保されます。除草剤によって弱ったり枯れてしまったりする事例が多くあります。仮に敷地外でも非選択性吸収移行型の顆粒状の薬剤を撒いて敷地内の植物が枯れたり、その薬剤の成分が雨などによって流れ出て農作物などに被害を与えてしまうこともあります。根は塀の基礎の下をこして伸びていますし、その土壌によっては流入してくることもあります。